

サラウンドの日関連イベント

富田 勲氏による 名古屋芸術大学 公開講座

「作曲におけるサラウンドと未来」について

名古屋芸術大学 音楽学部 音楽文化創造学科

サウンド・メディア選択コース 講師 長江 和哉

### 本コースについて

名古屋芸術大学 音楽学部 音楽文化創造学科 サウンドメディアコースは、2001年に今までにない新しい発想をもとに音楽大学の中に設置されたコースです。

作曲・録音・音響を教育の核にしながら、様々なジャンルの音楽や、サウンドを形成している分子としての「音」そのものについて学んでいっています。また、音楽的、あるいは芸術的にすぐれた音とは何かを考察する能力を養い、多彩なジャンルで活躍するクリエイターや、アーティスト的な発想を持ったエンジニアなどの人材の育成を目指しています。

本学には、SSL 4000G+と Digidesign Pro Tools HD を核にしたスタジオがあり、2005年からは授業でサラウンドでの音楽制作にも取り組んでいます。

今回はさまざまな縁があり、世界的な作曲家でこれまでに多くのサラウンドによる音楽表現を行ってきた富田 勲先生の公開講座を実現することができました。



名古屋芸術大学スタジオ

### 公開講座について

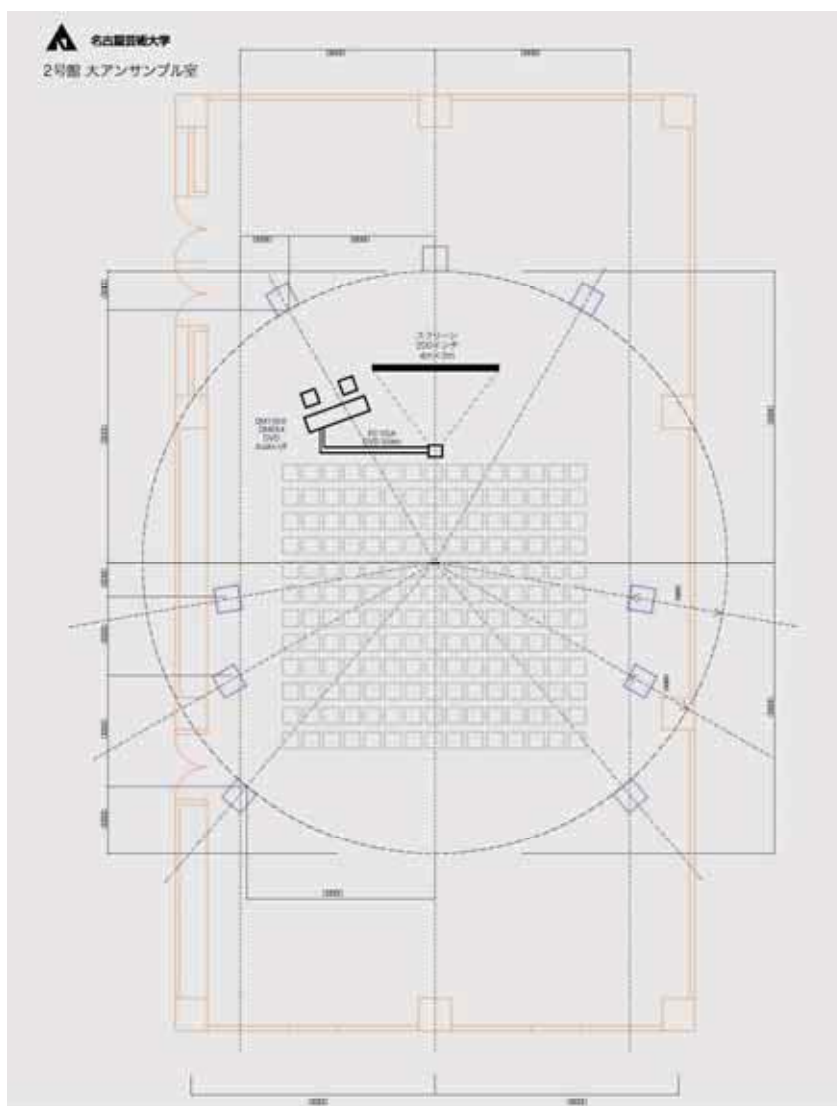
2011年5月12日(木) 16:00より名古屋芸術大学東キャンパス2号館 大アンサンブル室において、公開講座「作曲におけるサラウンドと未来」を行いました。早い時期よりサラウンドによる音楽表現を行ってきた富田 勲先生をお招きし、作曲におけるサラウンドについてや、サラウンドの魅力について、これまでに制作した楽曲をサラウンド再生しながら講義いただきました。

今回の講座でのサラウンド再生は、ヤマハ株式会社 PA 事業部 マーケティング部 CA 国内セー

ルスクール名古屋の機材協力のもと、本学講師の岡野 憲右氏とサウンドメディアコース 4年生の学生が担当しました。



公開講座「作曲におけるサラウンドと未来」会場



会場でのスピーカーセッティング図

富田 勲先生の講義の導入部では、幼少期に過ごした中国・北京の天壇公園「回音壁」での音響体験を発端に、立体音響へ興味を抱いたとのお話を頂きました。

また、NHKと一緒に取り組んだBSハイビジョン特集「仏法僧に捧げるシンフォニー 鳳来寺山 63年の再訪」では、台風が迫る中、録り直しができない状況下での収録の苦労など、撮影秘話を交えた解説に、会場を埋めた学生は興味深く聴き入っていました。

さらに、1975年にリリースされた、「展覧会の絵」から、「卵のからをつけたひなの踊り」をDAW、Steinberg Nuendoのミキサー画面を見ながらサラウンドで試聴。モーグ・シンセサイザーで表現された「ネコ」「ニワトリ」「ヒヨコ」の3つのキャラクターが前後左右にめまぐるしく移動することで、追いつ追われつの様子が再現され、サラウンドならではのユーモラスな表現に会場が沸きました。

続いて、「惑星(プラネッツ) Ultimate Edition」より「火星」「木星」を試聴。解説では、昨年(2010年)話題となった小惑星イトカワの探査機はやぶさの地球帰還といった快挙に触れ、親交の深かった日本の「宇宙開発・ロケット開発の父」と呼ばれる糸川英夫博士との思い出話を交えた心温まるエピソードも披露。また、サウンド面ではピンクノイズから独自の音を作り出す手法について詳しく説明されました。

後半では、先生の最近の作品より「源氏物語幻想交響絵巻」や「交響詩ジャングル大帝」などを題材に、最新のサラウンド音響の表現方法やその有効性を解説。

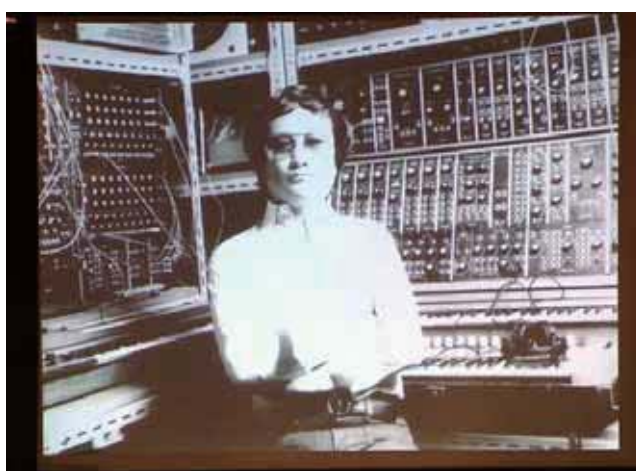
また、尚美学園大学大学院 富田研究室の研究員 津田 賢吾氏より、サラウンド版の「ジャングル大帝 2009」の中の「船に積まれて」の冒頭の貨物船が港を出航するシーンで実際に使われた、横浜港でのフィールドレコーディングについて、映像を交えて分かりやすく説明いただきました。

最後に、聴講する音楽を学ぶ学生に向け、子ども達が目を輝かせるような、誰にでも分かりやすいサラウンドの実現を目指して欲しいという言葉を添え、講座を締めくくられました。

本講座を聴講した学生の中から、先生の意志を継ぐ人が現れることに期待したいと思います。



富田 勲先生の講義



シンセサイザーと富田 勲先生

## まとめ

今回の公開講座では一般の方々の参加や、多数の放送・舞台関係の方々の参加もありました。お忙しい中、来学頂きまして感謝申し上げます。また、本学学生のために、講義頂きました富田勲先生にあらためて感謝申し上げます。今後ますます、サラウンドが一般に普及して、音楽と音の感動体験が広がることを願ってやみません。

## 筆者プロフィール

長江 和哉 (ながえ かずや)

1996年名古屋芸術大学音楽学部声楽科卒業後、  
録音スタジオ勤務を経て、2006年より名古屋芸術大学  
音楽学部音楽文化創造学科 専任講師。

サウンドメディア選択コースで録音の授業を担当。

AES (Audio Engineering Society) 日本支部 会員

